

## 平成27年度みよし市児童育成計画審議会会議録

日時	平成28年3月17日（木）午前10時から午前11時30分まで
場所	市役所3階研修室5
出席者	【出席】小沢志江子委員、梅川小夜子委員、赤沼梓委員、久野悟志委員、谷澤智子委員、村上優子委員、松本美佐委員、近藤浩美委員、正亀知子委員 【欠席】北川敏幸委員、渡辺祥子委員、吉田祐示委員、島野亜美委員、今井雅子委員
事務局	増岡健康福祉部長、小野田健康福祉部次長、梶原指導保育士、廣瀬課長、富田副主幹、木戸副主幹、杉山主任主査

- 1 委嘱状交付
- 2 市長あいさつ
- 3 会長選任
- 4 会長あいさつ
- 5 議題
  - (1)みよし市児童育成計画の概要について
  - (2)みよし市児童育成計画の進捗状況について

[事務局] 【議題1・2説明】

[小沢会長]

何かご質問、ご意見はありますか。

[谷澤委員]

3人目の保育園の無料化ですが、3人が同時に保育園に行っている場合ですか。児童クラブに子どもがいる場合は対象となりませんか。

[事務局]

18歳未満の児童の兄弟のなかで、1番年上の子を1人目とし、3人目以降の子どもが保育園や幼稚園に入園している場合に保育料や授業料等を無料化や原則無償化とするという意味です。

[谷澤委員]

わかりました。2点目ですが、0歳児の待機児童が現時点で13名いるということですが、こちらの対応はどうされていく予定ですか。

[事務局]

平成27年度の途中入園児で、0歳児については13名の待機児童がいるわけですが、この待機をお願いしている家庭については、認可外保育所を案内したり、一時保育事業を実施している保育園がありますので、その利用を案内したりしています。一時保育事業は週に3日間、就労を理由にして利用することができ、通常保育の週5日間に比べ利用時間は短くなってしまいますが、ご理解を頂きながら案内をしています。

[谷澤委員]

0歳の待機児童の人数を今後の計画でもっと増やすことは不可能でしょうか。

[事務局]

保育園の施設の広さを確保できないので、定員を増やすことは現在のところ難しいです。

[事務局]

保育園で対応できない部分については、小規模等の民間で対応していく必要もあります。

[谷澤委員]

みよし市には小規模保育所はありませんよね。

[事務局]

ありません。現在0歳の待機児童がいますが、0歳を増やすといこうとは、0歳の子が次の年には1歳になりますから、1歳・2歳児を同じように増やしていかないといけません。この計画の中で3歳未満児については、基本的には現在10保育園の改修をしたりして、まず広げて行く予定です。それでも限界があれば、小規模保育所等の民間を利用してくということ。今朝のテレビで、名古屋市の待機児童のこと、名古屋市では保留児童といっているようですが、希望して入れる所はあるけれど、そこには入れたくないと思っている方もみえるようです。公立保育園ではプール等もしっかり設備もあるけれど、民間のアパートやマンションの一室を利用した小規模保育所等では環境的にもあまり良くないということもあって、仮に小規模保育所を民間にするにしてもなかなか公立の保育所みたいにとは難しいところもあって、できるなら公立保育園と同じような環境の中で3歳未満の受入数を増やしていきたい。それでもダメなら、新しい保育園をつくるのではなく、小規模の民間をお願いする、または、幼稚園の預かりを検討すること等をしていきたいと思います。

[谷澤委員]

場所が無く0歳児を増やせないということで、資料7ページのように平成27年度は入所率が78.8%のように定員割れをしていますので、それをうまく活用はできませんか。例えば、ある保育園は0歳児を多く取るなど。入所率が78.8%はすごく低いと思いますので。

[事務局]

今後、保育園の入所人数は増えていきますが、結局、0歳から2歳児が増えているのであって、最初のこの計画でも0歳から11歳の子どもはこれからみよし市でも減少傾向にあります。ということは、3歳から5歳につきましては空きが出てくるということになります。今、78.8%というのも3歳から5歳に空きがあって、その空きの分を単純に0歳から2歳児にあてるというのも面積的には定員上ではやれますが、施設の中に学年で保育室をつくっていますので、5歳児の保育室に3歳児や4歳児入れて、その空いた分を0歳から2歳児に回すということはなかなか現実的な運用としては難しいです。

[谷澤委員]

なかなかうまく回らない状況と捉えていいですね。

[事務局]

例えば、ある保育園では0歳から2歳児までしか預からないなど、極端なことをやれば可能性があるということです。ただ、この計画にもあるようにみよし市の保育園はまず市内全域で考えます。市内なら車で概ね30分くらいであれば、市内の保育園全域に行けるという考え方で保育園を設置しています。例えば三好丘の方が0歳から2歳の時になかよし保育園なら空きがありますから、なかよし保育園ならご案内できますといったようにみよし市全体の中でやりくりをするということです。だから、片方の保育園だけ極端なことをするといろいろと難しい状況になってきます。いろいろな方法は考えないといけません、働きたい方がみえてお子さんを預けないといけないうきにそのお子さんをしっかり受け入れる体制は作っていかねばいけないうのはよくわかっており、その責務は感じています。ただ、今回のなかで国へ報告する時点では待機児童は無かったわけですが、月々では平成28年2月16日現在では13名おり、なかなか0人にするのはその年々によって違いますが、基本的に受入れを増やしていく方策をしないとイケないだろうと思っています。

[小沢会長]

ほかに何かありますか。

[赤沼委員]

私は仕事柄、産まれたばかりのお子さんを抱えたお母さんと接する機会が多いですけど、今は育休中で、その先、仕事に復帰されるという話をよく聞くので、ちょうど保育園の待機児童のことが出ていたので、話をさせて頂きたいのです。子どもが産まれたばかりで子育ての経験が十分なく不安を抱えてる中で、さらに1年後、2年後に復帰する時に子どもを預ける場所が確約できていないというのは、お母さんにとってもものすごく不安なようで、子育てだけでも手一杯なのにその先が見えないということですごく不安に思われているお母さんがいて、他の市町村ですが、市役所に行って話を聞いてみたら、あなたたちが復帰するときはまだ先だから、今相談されても言うことは何もないよと尽き返されたことがあるという話を聞きました。確かに市役所の人たちは他の業務もやられていて、正直面倒くさいなと思うこともあるかと思いますが、そうやって窓口に来られるお母さん達は不安を抱えて来られているので、例えば事前の説明会があったり、ちゃんとわかるように資料を1枚渡すだけでもお母さん達は不安がなくなると思いますので、そういうのがあるといいなと思いました。

[事務局]

他市のお話ということですが、みよし市役所の窓口でも1年後、2年後の相談に来られるお母さん達は、ここ最近は確かに増えてきていることは実感しており、みよし市では、そういった場合でもしっかり窓口対応はしていると思います。

育休復帰のお母さん達に、はっきり入園できますよという返事はできませんが、育休復帰の方に対する配慮はしているつもりです。具体的にいいますと、途中入園の場合は通常入園の1ヵ月前から受付をしています、育休復帰の場合は、3ヵ月前から受付をしています。この2ヶ月の差がありますが、そういうことで空きが出たら早く入園できるという配慮はさせてもらっています。また当初入園につきましても4月1日入園ではなくて、その年の12月までに育休復帰が決まっている方は、同じように受

付をさせてもらっています。当然、乳児につきましては待機児童が出ている状況ですから、各家庭の仕事の状況や家庭の状況を比べて、優先順位を決めさせてはいますが、育休復帰の方にはプラス点をつけさせて頂いています。本市の場合では、育休復帰の場合は、割りと入園がしやすい状況にはなっていると思います。

[赤沼委員]

先ほど0歳児は13名の待機児童とおっしゃりましたが、イメージ的に1歳児の方が、待機児童が多いという感じがありますが、実際1、2歳児の待機児童はどれくらいですか。

[事務局]

平成27年4月は本市の待機児童はいませんでした。月日が経つにつれて、途中入園の申し込みをされる方がみえまして、当然0歳児の定員が少ないものですから、待機児童になってしまったということです。さらに平成28年度につきましては、0歳児は待機児童がなくて、1歳児に待機児童が出ています。それは育休復帰が1年や延長して1年半という制度を各民間企業が使っていますので、0歳児の年度の後半、当初入園の1歳児に入園希望が殺到しているという状況と把握はしています。年度後半の待機児童の0歳児が翌年度、そのまま1歳児の当初入園となり、1歳児の待機児童が増えるという状況になっています。

[事務局]

就労時間も平成27年度は月140時間であるのを平成28年度からは月に120時間としています。あと4年後には3歳未満児も月60時間働いていれば保育園に預ける要件に満たすというように緩和していくと、当然のように預けたいという方が増えてきますので、この計画より待機児童が増えるということが慢性的になるようであれば計画を早めてやっていかないといけないという思いはあります。

[赤沼委員]

12月までの育休復帰の方を早めに対応して頂けるというのは、さすがみよし市だなと思いました。

[松本委員]

育児中に友達とコーヒーに飲みに行きたいから、子どもを預けるという思いは「えっ。」という思いもありますが、大切なことだと思います。素直に言えるお母さんがもっといてほしいというか、やっぱり子育てがストレスだと思うことも現実だと思います。自分でお腹を痛めて産んではいるものの、産む前からの不安もたくさんあると思うので、そういったはけ口というか、たくさん聞いてくれる大人たちを市の中でボランティア的に自分も動けたらいいなと思いました。そういったお母さんを否定したくないし、そういったことを素直に言える環境があると世の中変わってくるんじゃないかなと思います。

[小沢会長]

子育て支援講座を毎月1回行っていますが、昔ですと3世代でおじいちゃんやおばあちゃんから子育ての仕方を教わっていたりもしましたが、今はそれが全然ないから、子どもをどう扱っていいかわからない人がみえます。講座をやっていけば、具体的に様子がわかりますので、1時間30分のうち30分は講義をしますが、あと1時間

は話題提供という形で姿をみながらお話をしています。そうすると質問がいっぱいできます。ただ講義をするだけではなくて、子どもを入れてお話をするのがいいかなと思います。とにかく子育てがわからない方が多いですね。何かの形で広がっていければいいと思います。

[事務局]

今後のスケジュールですが、来年度も年1回を審議会の開催を予定しています。平成30年以降については計画を新たに策定する予定ですので、年数回、審議会を開催することになると思います。